

## 平成21年度第2回九州ブロック クラブミーティング2009 開催報告

平成21年11月21日(土)～22日(日)の2日間にわたって「第2回九州ブロッククラブミーティング2009」が鹿児島県青少年会館において開催された。

第1日目のクラブミーティング2009は創設支援クラブを対象にしたもので、創設支援クラブ62クラブから117名の他、地方企画班員4名、各県体協担当者・クラブ育成アドバイザー18名、オブザーバー6名等、総勢149名が参加した。「クラブ創設上の悩みをみんなで共有しよう!」というテーマのもとに8つの課題を設定し、各県のクラブ育成アドバイザーに相談解決をしてもらうといった課題別相談ブースめぐりを3回実施した。



第2日目は主に活動支援クラブと都道府県総合型クラブ連絡協議会加入クラブを対象としたもので、創設支援クラブ13クラブから17名、活動支援クラブ15クラブから21名、県連絡協議会加入クラブ13クラブから18名の他、地方企画班員3名、各県体協担当者・クラブ育成アドバイザー18名、SC全国ネットワーク関係者8名、発表者2名、オブザーバー4名等、総勢95名が参加した。主テーマは「クラブの将来像は見えていますか?～クラブの実態から見える、クラブの将来像と夢プラン～」であり、基調講演と2クラブによる事例発表を行った。

第1日目と第2日目の概要については、以下のとおりである。

**第1日目:11月21日(土) 12:45 ~ 16:30**

### **【1】課題別相談ブースめぐり**

#### **拠点施設の確保はどうしたらいいの?(島内アドバイザー・溝口アドバイザー)**

第1ブースでは、島内・溝口アドバイザーから「拠点施設とは」「クラブの主な活動場所の確保・工夫」「学校開放の法的根拠」「校区を範囲とする理由」などについて説明があった。参加者からは「施設の減免措置」「指定管理者制度」「施設利用の優先順位」「クラブハウスの作り方」などの相談があった。

[参考データ:第1回目17名,第2回目0名,第3回目5名]

#### **指導者の確保やクラブマネジャーの仕事はどうすればいいの?**

#### **(野島アドバイザー)**

第2ブースでは、野島アドバイザーから「どんな指導者が必要なのか」「指導者の発掘方法と募集方法」「指導者の育成方法」「クラブマネジャーの役割と確保方法などについて説明があった。また、参加者からは「クラブマネジャーの資格取得」「ボランティア指導者と有償の指導者への対応方法」「指導者への謝金額」「リスクマネジメント対策」「クラブマネ

ジャーの常置の意義」「クラブ独自の資格発行の事例」などの相談があった。

[参考データ：第1回目 18名，第2回目 16名，第3回目 14名]

### **総合型クラブの認知度を高める広報活動ってどうすればいい？**

**(仲里アドバイザー・奥田アドバイザー)**

第3ブースでは、仲里・奥田アドバイザーから「クラブのイメージアップを図る工夫」「広報活動の方法」「広報活動のポイントと5W1Hの基本」などについて説明があった。一方、参加者からは「高齢者に対する広報活動の方法」「クラブ会員に対する特典のつけ方」「チラシ作成・配布の際に工夫すべき事項」「口コミこそ最大の広報手段である」「県・市町村の広報活動の現状」などの相談があった。

[参考データ：第1回目 21名，第2回目 18名，第3回目 16名]

### **行政・既存団体・クラブ等との望ましい関係って、どうやって創るの？**

**(花田アドバイザー・甲斐アドバイザー)**

第4ブースでは、花田・甲斐アドバイザーから「行政が総合型クラブに対して協力・支援すべき内容・活動」「総合型クラブが協力・支援を依頼すべき行政担当者」「総合型クラブと既存団体が協力・連携すべき内容・活動」「総合型クラブが協力・支援を依頼すべき担当者」について説明があった。しかし、参加者からは「アドバイザーからの説明内容は理解できるが、現実にはなかなか難しく、多大な時間がかかっている。最終的には、時間をかけてゆっくりと理解し合うしかないのではないか」という意見が出された。

[参考データ：第1回目 16名，第2回目 18名，第3回目 8名]

### **住民・会員ニーズの把握と会員確保ってどうやるの？(永田アドバイザー)**

第5ブースでは、永田アドバイザーから「住民・会員とは誰のことか」「ニーズを把握するための様々の調査方法」「収集した情報の分析方法」「新規会員獲得のためのAIDMA理論の考え方」「会員満足の創り方」などについて説明があった。一方、参加者からは「調査項目の選択・決定方法(何を聞くべきなのか)」「調査結果の活用方法」「住民の興味・関心を喚起する方法」などの相談があった。



[参考データ：第1回目 12名，第2回目 19名，第3回目 11名]

### **会費設定と財源確保、どうすればいいの？(内田アドバイザー)**

第6ブースでは、内田アドバイザーから「財源確保の必要性」「資源の考え方」「総合型クラブの収入源と自主財源」「会費設定の具体的な方法」「事業計画と収支予算書」などについて説明があった。また、参加者からは「具体的な収入源」「寄付の集め方」「会費設定額の高額化の方法」「スポーツプロダクトの考え方」「健康づくり部門との連携方法」「会費値上げの説得方法」「指導者への適正な謝金額」などの相談があった。

[参考データ：第1回目18名，第2回目24名，第3回目23名]

### **魅力的な事業って、どうやって計画するの？（慶田花アドバイザー）**

第7ブースでは、慶田花アドバイザーから「魅力的な事業を計画する理由」「スポーツ活動に参加するための4条件とは何か」「事業を計画する際に準備すること」「事業計画の作成方法」などについて説明があった。一方、参加者からは「高齢者が参加しやすい事業づくりとは？」「子どもたちが参加するための事業とは？」「障害者スポーツを取り込んだ事業展開をしている事例があるか」などの相談があった。

[参考データ：第1回目7名，第2回目15名，第3回目31名]

### **みんなで集って話し合う会議って、どうやればいいの？（土谷アドバイザー）**

第8ブースでは、土谷アドバイザーから「会議とは何か」「会議の種類」「会議前・会議時・会議後の留意事項」「マネジメントサイクルの活用」などについて説明があったが、参加者数が少なく、相談があまり寄せられませんでした。参加者からは「今まで独りよがりの会議をしていたということが分かった」という反省が述べられた。

[参考データ：第1回目6名，第2回目0名，第3回目2名]

## **【2】全体会：アドバイザーからの報告**

全体会では、各課題を担当したクラブ育成アドバイザーから、寄せられた相談内容とそれに対する解決策について紹介してもらった。いずれにしても、こうした8つの課題の地道な克服過程こそ、総合型クラブ運営の成否の鍵を握っているのではないかと。

第2日目：11月22日（日）12:45～16:00

## **【1】基調講演：実態調査からみる、総合型地域スポーツクラブの課題と展望」**

**（久留米大学健康・スポーツ科学センター研究員 村田真一氏）**

この基調講演において、村田氏からは、(1)総合型地域スポーツクラブ再考、(2)総合型地域スポーツクラブ実態調査結果の分析、(3)総合型クラブにおける中・長期計画の重要性などについて提案していただく。

### **（1）総合型地域スポーツクラブ再考**

総合型クラブ構想において重要なキーワードは「理念」「学校区」「運営参加」であり、こうした原則に基づいて、総合型クラブ特性（総合型クラブらしさ）というものが明確にされると指摘された。村田氏によれば、自律性（メンバー自身の主体性と、それに基づいた計画的クラブ運営をすること）、連帯性（メンバー同士の連帯・協働を図っていくこと）、理念（クラブの存在価値などを具体化すること）、自主資源（ヒト・モノ・カネ・情報などの資源の獲得・蓄積・共有を図っていくこと）、事業性（クラブ理念や目的・使命を達成するために、多岐にわたる事業を創造し展開すること）、ネットワー

キング（地域内にある関連団体・既存組織等との良好な関係づくりを行うこと）、日常生活圏（校区を中心としたクラブづくり・クラブ運営を行っていくこと）といった7つの特性が総合型クラブ特性を示すものである。そして、こうした7つの特性を一度に整えていくのではなく、優先順位を設定しながら段階的・計画的に整えていく必要があるということも強調された。

## （2）総合型地域スポーツクラブ実態調査結果の分析

このような総合型クラブ特性という観点から、村田氏自身が、既に全国に設立されている総合型クラブの現状と課題について調査を実施し分析した結果について紹介いただいた。（なお、調査は2009年1月20日～3月31日の間で実施され、調査対象となった1,307クラブのうち597クラブ（有効標本回収率45.7%）から調査票を回収することができた）

その結果、回答のあった597クラブのうち、総合型クラブ特性をバランスよく備えた「理想型クラブ」は99クラブ（19.4%）、「発展途上型クラブ」は93（18.2%）、「基本型（初期型）クラブ」は201（39.4%）、「未発達型クラブ」は81（15.9%）、そして日常生活圏という地域性にこだわっていない「脱・地域型クラブ」は36（7.1%）といったように、総合型クラブらしさを備えたクラブが20%にも達しないということが指摘されると同時に、総合型クラブとして発展していくために必要な「基本要件・発展要件・理想要件」（合計45項目）が提示された。

## （3）総合型クラブにおける中・長期計画の重要性

こうした実態調査結果を踏まえた上で、村田氏は、総合型クラブが総合型クラブらしく発展していくためには、こうした基本要件・発展要件・理想要件などを段階的に取り込んだ、長期的展望に立ったクラブづくり・クラブ運営のための「マスタープラン」を策定することが重要であるということも強調された。



## 【2】事例発表

この事例発表のセッションでは、NPO法人七瀬の里NクラブNスポーツクラブの森慎一郎氏、南関すこやかスポーツクラブの城野和則氏にご登壇いただいた。

### NPO法人 七瀬の里Nクラブ Nスポーツクラブ（事務局長 森 慎一郎氏）

Nスポーツクラブは、旧野津原町（人口約5,200人）を範域として、平成16年4月に設立されたクラブである。このクラブの設立のきっかけは、中学校部活動を取り巻く問題を解決するという活動にある。平成19年9月にはNPO法人格を取得し、「NPO法人 七瀬の里Nクラブ」（将来的なイメージも含めて）という大規模なクラブ組織の中の1つとしてNスポーツクラブを展開している。2009年度現在の会員数は771名であり、43にも及ぶサークル・教室活動を実施している、地域に根ざした総合型クラブである。

このNスポーツクラブの最もユニークな特徴は、設立当初から「Nスポーツクラブ中・

長期計画（2004年度から2028年度までの25年間）」を策定し、その計画に基づいてクラブ運営を実践しているという点である。こうした中・長期計画に基づいて、将来的には、Nスポーツクラブだけではなく、Nカルチャークラブ、高齢者福祉活動部、子ども成人の知的活動部、野津原グリーンツーリズム研究会なども設置し、七瀬の里Nクラブというコミュニティクラブへと発展していったという点は、永続する総合型クラブの特徴を備えている。この点に、Nスポーツクラブの将来像へ向けた壮大な夢プランがあるとともに、村田氏からの指摘にもあった「理想的な総合型クラブへと発展していくための計画づくり」の重要性を確認することができる。

#### 南関すこやかスポーツクラブ（アドバイザー 城野 和則氏）

南関すこやかスポーツクラブは、福岡県大牟田市と隣接する熊本県玉名郡南関町に、平成17年1月に設立されたクラブである。このクラブの設立のきっかけは、「スポーツをしたくてもできない人の環境づくり」「地域の大人と子どもがふれあう機会の提供」「将来も変わらないスポーツ環境の保障」などにあった。2009年度現在の会員数は399名であり、27にも及ぶサークル・教室活動を実施している。

この南関すこやかクラブの特徴は、南関町の「総合振興計画（平成17年度）」において総合型地域スポーツクラブの育成と支援が明確に打ち出され、行政をはじめ地域全体で取り組もうという計画があること。また、南関すこやかクラブの将来像として、中学校部活動や南関町体育協会、行政（福祉課）までも取り込んだコミュニティクラブとしての活動を描き出し、計画策定に進んで

いる点も、永続する総合型クラブとしての可能性を持っている。この点に、村田氏が提案した総合型クラブ特性における基本要件・発展要件・理想要件の段階的の充実という考え方を確認することができる。



#### まとめ

第2回九州ブロッククラブミーティング2009は、初めて2日間開催という方式で行われた。2日間参加された方はかなり大変だったと思うが、たくさんの収穫があったのではないかと。特に、総合型クラブの維持・発展の根本は、第1日目の8つの課題を克服することにあるとともに、そうした課題を克服するための段階的・計画的・長期的展望を見据えた「総合型クラブ運営マスタープラン」を策定し実践していくことにあるということ。つまり、スポーツを通じた地域づくり・人づくりをめざす「夢プラン」の策定と共有、そして実践が、これからの総合型クラブにとっては必要不可欠である。各クラブに持ち帰って、運営委員だけではなく、クラブ会員も含めたみんなで情報共有して頂ければ幸いである。

（報告 九州ブロック地方企画班長 中西純司）